

科目名称		社会科教育法Ⅳ	
(担当教員名： 吉水裕也 )			
課 程	： 学部2・3年次	開講学期	： 後期
授業形態	： 講義	授業規模	： 30人以下
インタビュー対象教員名		吉水裕也	
(実施日時：7月13日(月)16時30分～18時；実施場所：総合研究棟3階小会議室)			
インタビュー対象受講者名		宮内俊輔，廣瀬綾香	
(実施日時：7月13日(月)16時30分～18時；実施場所：総合研究棟3階小会議室)			
選定理由			
<p>本授業では、現場の教員が混乱しがちな学習指導要領のコンセプトを丁寧に指導しており、受講生は、自分が持っている常識と現場とのズレを実感する驚きを用意された授業である。受講生は、これまで自分が実際受けてきた授業をもとに、今後自分が作る授業をイメージするが、必ずしもそれが授業としてあるべき姿とは限らないということを知ることができるのである。</p> <p>さらに、講義形式でありながら、授業の中に「受講生のアクティブな参加」を促すための仕掛けがちりばめられており、これらのことから、本授業は、受講生が自ら考え、深い学びを引き起こすことに成功していた。その具体的内容は以下のとおりである。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 独自の「1枚ポートフォリオ」を活用している</li> </ul> <p>「1枚ポートフォリオ」とは、学生が授業毎に感想・質問・意見等を記入したののに対し、教員と他の受講生のコメントを受けるものであり、1枚の様式に授業全15回分を書き込むことができる。これにより、教員と受講生や受講生同士のコミュニケーションが生まれるほか、受講生は一目で自己の成長を確認し、自己評価しながら毎授業に取り組むことができる。また、他の受講生が考えていることを知ることができ、刺激となっている。同時に、気の利いたコメントを短時間で書けるようになるための現場を意識したトレーニングを兼ねており、受講生にとって毎授業の楽しみの一つでもある。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 受講生が思考するための工夫が設けられている</li> </ul> <p>グループを作って考える時間や、隣同士で話し合う時間が設けられており、教員からの一方的な知識の伝達ではなく、受講生は自分の考えを十分に整理することができる。また、受講者からのコメントによると、目に見える話し合い以外の時間でも「なんでだろう」「どうしたらいいだろう」といつも考えている授業であり、自らが社会科の教員を目指しているからこそ、どのように授業へ活かしていくかということを実際に考えていたとのこと。受講者は、教員の意図している、持っているイメージと実際の現場とのズレに驚きや疑問を感じながら、講義中も主体的に授業へ参加しているのである。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 模擬授業を早い時期に体験できる</li> </ul> <p>授業分析や指導案を、実習へ行く前に学ぶことができたことが役に立ったと受講生はコメントしている。受講生1人ではイメージが難しいことも、グループで共に考えることができ、実習の場で大きなアドバンテージとなる。受講生は、模擬授業に向けて授業時間外で集まり、自主的に授業について考えることも少なくなかったとのこと。</p> <p>以上のことから、本授業をベストクラスの1つとして選定したい。</p>			